

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 東京勤労者医療会 代々木病院 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03 (3404) 7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

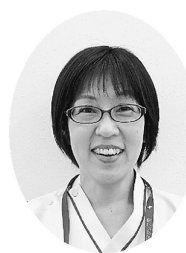
代々木病院の保健予防活動

健診
センター

青空健康チェックで血圧や血管年齢測定などを行っています

代
表
的
な
保
健
予
防

保健予防活動のうち代

健康センター 看護師長
保健師 三村尚代

代表的な活動は、がん健診などを含む健康診断業務です。多くの方が受診出来るように、平日日中以外にも夕方健診、月2回の土曜日健診や月1回の日曜健診を実施しています。また乳がんや子宮がん検診もレディースデイなども実施しており、年に1回の健診を通して健康状態を振り返る

代々木病院は、2008年から地域にお住いの方、働く人の健康づくりを推進する保健予防活動を推進してきました。健診受診者の数は、それまでの年間1万人前後から、今や4万人に及ぶに方の健康管理を行うようになりました。

疾患の予防にとって重要な業務と活動

さらに、健診受診後の精密検査が必要な方への連絡や受診勧奨、電話相談、保健指導を行っています。また、健診結果説明会、健康教室の開催も出張で行うこともしています。見えにくい活動ですが、疾病の予防にはとても重要な業務で看護師・保健師がとくに力をいれて対応をしています。

地
域
や
職
員
の
健
康
も
守
る

地域の健康を守るために2012年にスタートした「ころぼん体操」は現在週2回実施し、大盛況です。青空健康チェック、社教館まつり（渋谷区社会教育館）や鳩森神社（鳩森八幡神社の通称）お祭りなどの地域行事の健康チェックには保健師、看護師、理学・作業療法士、歯科衛生士などが代々木健康友の会の方々と出向くことが恒例



千駄ヶ谷社会教育館で行った医療懇談会（澤山保健師の講演）

【HPHの説明】

地域の健康づくりに貢献する「健康増進活動拠点病院」（HPH）の「HPH国際ネットワーク」。誕生のきっかけは、1986年にWHOが採択したオタワ憲章です。「ヘルスプロモーション」（健康増進）という理念を掲げ、「人々が自ら

となり、地域の方との触れ合いを楽しみながら、「地域丸ごと健康づくり」をおこなっています。

2013年には主に働く人のこころの健康を守り、生き生きと働き続けるために精神科医と臨床心理士を中心としたE A

の健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス」と定義しました。

このヘルスプロモーションを地域で実践する病院（HPH）を世界に広げるため、国際ネットワークが1990年に発足しました。世界34ヶ国の約700施設などが加盟。現在加盟している日

H
P
H
加
盟
病
院
と
し
て

2015年にはWHO推奨の国際的なネットワークであるHPH（健康増進活動拠点病院）に加盟し、2016年には健診センター所属の医師が着任しました。健康と暮らしを守り、安心して生活できるように様々な面からサポートしている保健予防活動が、ますます充実し、発展していくことを私自身もとても楽しみにしています。

P（従業員支援プログラム）活動も開始しました。ストレスチェックや、相談、メンタルヘルス講習会など様々な活動をおこない、こころの健康に尽力しています。

千駄の萱

「高齢者の定義は75歳以上」「従来の高齢者（65歳以上）は社会のいない手」。

1月の日本老年学会のこの発表は、65歳定年を念頭に働いている43歳の小生にとってはきつい▼また、安倍政権は会社員に副業をすすめる。しかし退社後の行いたいことに関するアンケートでは、1位から「心身の休養・リフレッシュ」「自身の趣味」「家族との団らん」と続く（労働政策研究・研修機構が2016年3月に発表）。プライベートを大切にしたい人が多いのが現状だ▼一方で残業代が出ない「みなし労働時間制度」、成果のために際限のない長時間労働となる「高度プロフェッショナル制度」を政府や財界はすすめる。国家や財界のため個人の暮らしを犠牲にするというのか▼日本国憲法は、誰もが金のある無しに関わらず健康で文化的な生活をおくれるようにすることを、為政者に求めている。しかし何もなければ為政者は改悪をする。大切なのは、憲法は国民が声をあげ続けることでその理念が生きてくることだ。さあ、私たちが子、孫たちのために、憲法を活かし誰もが安心して暮らせる社会の実現を求めよう。（た